

太田市自分ごと化会議 2020
報告書

「働きやすい街」

令和3年3月

目 次

1. はじめに	1
2. 「太田市自分ごと化会議 2020」実施概要	2
3. 「太田市自分ごと化会議 2020」からの行政に対する3つの提案と 私たちができる3つのこと	4
(1) 行政に対する3つの提案.....	5
(2) 私たちが出来る3つのこと	7
(3) 行政に対する3つの提案と私たちが出来る3つのことから見 えたこと	9
4. 付録：アンケート結果.....	10

1. はじめに

太田市長 清水 聖義 様

昨年の9月から始まった今回の太田市自分ごと化会議では、今年の2月までの間に全4回の会議を開催し議論を重ねてきました。本会議には、無作為に抽出された600名の中から参加を希望した16名が参加、さらに過去の太田市自分ごと化会議に参加したOBOG委員も加わり議論を進めてきました。15歳から76歳まで、職業や経歴も多種多様なメンバーがそれぞれの経験や意見を交わしながら交流を深めることができ、とても貴重な経験となりました。

今年は「働きやすい街」をテーマに議論を重ねました。仕事と家庭での日々の生活は表裏一体です。働くうえで、誰しもが大なり小なり悩みを抱えながら働いています。委員それぞれの年齢や職業や生活スタイルなどが違うため、日々感じている課題や困りごとは、子育てに関する悩み、職場での悩みなど多岐に渡っていましたが、議論を重ねていくうちに共通点も見えてきました。

それは、職場や家庭だけでなく、働くことに関わる「周囲の環境を整えること」の重要性と“ちょっとした困りごとを共有する場”の必要性です。それぞれの抱える課題や困りごとは多岐に渡りますが、同じような境遇にいる人は多くいるはずで、そういった人たちとつながりあえる場が大切なのではないかと考えました。その場での交流が直接問題を解決する結果にならなかったとしても、同じような境遇の人と交流をし、つながりを持つことが良い効果を生み出すのではないかということに気づきました。

4回の議論を重ねることでこの他にも様々な気づきがあったので、その気づきを行政や太田市民に伝えたいと思い本報告書を作成しました。この報告書が今後の太田市の成長に少しでもお役に立てば幸いです。

最後に、今回コロナ禍の難しい状況下で、オンラインツールの活用を織り交ぜながらこのような貴重な機会を提供いただいた太田市長はじめに太田市の皆様にご心より感謝いたします。ありがとうございました。

令和3年3月
太田市自分ごと化会議 2020 委員一同

2. 「太田市自分ごと化会議 2020」実施概要

○委員・太田市職員・コーディネーター・ナビゲーター

無作為に抽出し会議委員の案内を送付した数	600 件
応募した委員（応募率）	16 人（2.6%）
参加した委員の数	21 人 (特別枠、OBOG 含む)

委員	阿部 浩志	委員	荒岡 瞳	委員	池田 隆之介
委員	内田 瞬	委員	岡林 勝	委員	金井 善知
委員	竹川 洋	委員	田村 優佳	委員	對比地 文男
委員	中村 芳恵	委員	奈良 裕治	委員	野崎 巧
委員	箱田 美紀	委員	樋口 稔秋	委員	峰岸 淳美
委員	柳田 雅敏	委員(特別枠)	尾上 賢 (※)		

※太田市商工会議所青年部政策提言からっ風委員会 令和元年度委員長

○太田市自分ごと化会議 OBOG

- ・金田 雄一
- ・小林 理恵
- ・山口 佳子
- ・渡部 由夫

○太田市工業振興課

- ・神藤 猛史
- ・高橋 正敏

○構想日本

<コーディネーター（議論の整理役）>

メインコーディネーター

- ・小瀬村 寿美子（厚木市 こども政策アドバイザー）

サブコーディネーター

- ・田中 俊（構想日本 プロジェクトマネージャー）

<ナビゲーター（論点の提示役）>（第3回のみ参加）

- ・塚本 恵（キャタピラージャパン 代表執行役員）

○テーマ及び各回の議論

テーマ：「働きやすい街」

開催日：

- ・ 第1回会議：2020年10月11日（日）
 - ・ 自分ごと化会議の概要説明（太田市企画政策課）
 - ・ 太田市の概要説明（太田市企画政策課）
 - ・ 太田市の労働関連施策の説明（太田市工業振興課）
 - ・ 委員の自己紹介
 - ・ 議論

- ・ 第2回会議：2020年10月25日（日）
 - ・ 改善提案シートの概要説明（構想日本）
 - ・ 第1回会議振り返り
 - ・ 議論

- ・ 第3回会議：2020年11月28日（土）
 - ・ 改善提案シートの概要説明（構想日本）
 - ・ 第2回会議振り返り
 - ・ ナビゲーターによる事例紹介
 - ・ 議論（OBOG、ナビゲーターも議論に参加）

- ・ 第4回会議：2021年2月20日（土）
 - ・ 改善提案シートの概要説明（構想日本）
 - ・ 第3回会議振り返り
 - ・ 議論
 - ・ 委員の感想

3. 「太田市自分ごと化会議 2020」からの 行政に対する3つの提案と 私たちができる3つのこと

私たちは「働きやすい街」をテーマとして、これまで全4回議論を重ねてきました。

議論の中で見えてきた課題と解決策を踏まえ、行政に対する3つの提案と私たちができる3つのことを以下のとおりまとめます。

(1) 行政に対する3つの提案

- 提案1. ちょっとした困りごとを共有する場をつくる
- 提案2. 子育ての環境整備をさらに進める
- 提案3. 多様な働き方の支援をする

(2) 私たちができる3つのこと

- 1. ちょっとした困りごとの共有を意識し行動する
- 2. 自分から情報発信をする
- 3. 情報に対するアンテナを高くする

具体的な内容は以下のとおりです。

(1) 行政に対する3つの提案

働きやすい街にするためには、職場や各家庭内での創意工夫が基本となるように思われますが、4回の議論を重ねる中で、働くことに関わる「周囲の環境を整えること」の重要性が見えてきました。これからの太田市をより働きやすい街にしていくために、私たちから以下のとおり3つのことを提案します。今後の街づくりおける参考としていただければ幸いです。

提案1. ちょっとした困りごとを共有する場をつくる

■提案内容

仕事と家庭での日々の生活は表裏一体です。働くうえで、誰しもの大なり小なり、子育て、仕事の悩み、介護など、様々な悩みを抱えています。そういった悩みを、家族や職場だけでなく、ゆるやかなつながりの中でちょっとした悩みを話せる人の存在は、どんな悩みを抱える人にとっても大切なのではないかと議論をしていく中で見えてきました。そこで、私たちは「**ちょっとした困りごとを共有する場をつくる**」ことを提案します。

提案1. を実現するための具体的な意見は以下のとおりです。

- ・各地域で開催しているコミュニティ活動、サークル活動、各種ボランティア団体の情報をとりまとめ周知を行い、地域の活動や興味のある分野のサークル活動に参加したいと思っている人たちが飛び込みやすいような環境整備をする。
- ・悩みを持つ人を行政が把握できる仕組みを作り、悩みの種類に応じた悩み相談とのマッチングを SNS 等の様々なツールを使い行う。
- ・ネットであっても現実であっても、市民が気軽に情報をアウトプットできる環境づくりをする。市民が自分の手で自分の必要とする情報やコミュニティを活用したり発展させていくことが理想。
- ・アパートに転入してきた方など地域と関わりが薄い人などに対し、住民登録の手続きと一緒に QR コードなどで情報を取れるアプリの取得を促すなど、知らない人はいいやではなく、まずは情報取得の手段を入り口で伝える。情報に弱い人、声を上げられない人にやさしい仕組みをつくる。
- ・民間の団体や各種コミュニティに参加し、どのような活動をしているか、どんな人が活動しているのかを学ぶ。そこで蓄積した知識や情報を、必要としている人に届くように発信したり、団体の活動を支援する。

提案2. 子育ての環境整備をさらに進める

■ 提案内容

子育てと仕事の両立は、多くの働く人に共通した困りごとである事が見えてきました。太田市の現状の子育て支援策に対する評価は比較的高いものでしたが、それらをより良いものにしていくために。私たちは「**子育ての環境整備をさらに進める**」ことを提案します。

提案2. を実現するための具体的な意見は以下のとおりです。

- ・ファミリーサポート制度の拡充のため、制度を利用する際に「個人→組織」ならば安心だが「個人→組織→個人」という形で仲介だと不安を感じるので、新たな仲介方法を考える。また、ファミリーサポート制度の利用者とその子供、サポーターが事前に SNS 等を通じて交流を持つことで互いに円滑に安心して制度を利用できるようにする
- ・こどもプラッツの年齢制限を廃止し、意欲のある人がボランティアとして働くことができる環境をつくる。
- ・太田市で実施している子育て支援策に関する情報を、Twitter や LINE のような SNS を通じて、より具体的に発信する。同時に、広報紙、学校、行政センター等を利用し、子育て支援策の宣伝活動を行うなど、口コミで広めるための情報提供を色々な場所で仕掛ける。また、情報を取りにいかない人や、アパート暮らしで回覧板や近所付き合いのない人に情報を伝える方法を考え実行する。
- ・子育て世代を応援する人（特に男性）を募集するために、太田市役所の公式アナウンスとして WEB サイト、YouTube、各種 SNS 等を駆使し、効果測定を実施して開示・報告する。また、自治体経由で各戸にアナウンスを強化。浸透させることが目的なので回覧板よりも重要な書類で定期便化する。募集内容は「仕方なくやる」ではなくて「楽しんで続ける」ことができるもの考える。
- ・子育て支援の基本的部分を制度化し、市全体として広報などで協力に向け広報活動を実施する。また、議員と行政区が協力して一斉にその取り組みを市民に徹底して協力をお願いする。
- ・子育てに関する情報を発信する行政側の電話相談や、窓口の相談、手続きの対応の質を向上させる。

提案3. 多様な働き方の支援をする

■ 提案内容

太田市は製造業がとても盛んな街です。それは大きな特徴なので強みとして伸ばしていくことも大事ですが、同時に多様な働き方も広がってきています。日々変化する働き方の変化に対応しながら、製造業以外の仕事もしやすい街にしていくために、私たちは「**多様な働き方の支援をする**」ことを提案します。

提案3. を実現するための具体的な意見は以下のとおりです。

- ・市として伸ばしたい分野の産業を選び、ターゲットを絞りサポートをする。また、民間企業が進めている活気のある事業や、特徴のある取り組みなどを積極的リサーチして取材、体験したうえで市民向けに発信する。
- ・太田市に生まれ育った人たちに、太田市にどんな仕事があるのかをまとめた情報を発信する。進学等で一度は太田市を出ても、将来的に戻ってきて太田市で働きたいと思う人は想像以上に多いので、そういった人達に対しての情報発信、職業説明会のようなイベントをするなど、太田市に戻って働きたい人たちに対する働きかけをする。
- ・テレワークなどの働き方を実践している人やこれから実施しようと思っている人に対して太田市の生活環境のPRをする。車や電車でも都心まで1時間半～2時間程度で移動できるアクセスの良さなどをアピールすることで太田市の魅力を伝え、多様な働き方に対応できる街というイメージづくりをする。
- ・テレワーク可能な企業の紹介とテレワーク希望者のマッチングを行う。
- ・サテライトオフィスの環境整備とPRをする。

(2) 私たちが出来る3つのこと

日々の生活の中で、各々が様々な悩みを抱えながら働き生活していることは議論を重ねることで見えてきました。そういった悩みに対して行政が支援策を考え実行することも大事なことです。しかしそれだけではなく、私たち市民が積極的に情報を探したり、個人でできることや周囲と協力することで改善できることを見つけ行動することも、とても大事なことであるということに気づきました。行政が様々な支援策を講じてくれたとしても、受ける側である私たち自身の意識も変わらないと、その効果は半減してしまうと考えます。そこで、私たちが住むこの太田市をより働きやすい街にしていくために「私たちが出来る3つのこと」を提案します。

1. ちょっとした困りごとの共有を意識し行動する

■内容

ここまで、各々が様々な悩みを抱えながら仕事をしているということを述べてきましたが、それらの悩みを解決することは一人では難しいケースがほとんどです。こんな時代だからこそ、今まで以上に人と人、地域のつながりを密にすることで解決できることも増えるのではないかと考えます。そこで、私たちは「ちょっとした困りごとの共有を意識し行動します」。

1. を実現するための具体的な意見は以下のとおりです。

- ・「目的を果たすためではない言葉での声かけ」をする。目的を果たすための言葉ではなくて、結果的に目的を果たせるような緩やかな声掛けをした方が人は受け入れてくれる。
- ・子育て世代を応援する人（特に男性）を募集するために、各 SNS で発信&拡散、周辺の適任者（世話好きな人）に声かけをするなど、親ではない身近な大人という存在を活かすよう行動する。
- ・地域住民全体でファミリーサポートなどの子育て制度の情報を共有し、積極的な制度の利用を促す。
- ・友達などと相談しあえる関係を日頃から築いたり、地域の行事等に参加することで地域の人間関係を活性化させるなど、周囲の変化に気づくことのできる地域住民の人間関係を構築できるように行動する。
- ・地域で子育てに関して相談できる場所などをつくり、回覧板や地域清掃などの場でその存在を広めてみる。
- ・自治会と育成会の連携を強化する。
- ・個人店、個人企業の利用を推進することで、地域のつながりの強化につなげる。
- ・子育てには地域の人々の協力が欠かせないので、周囲の人に自分たちの家の状況を発信して、必要な手助けを受けやすい状況をつくる。
- ・市が制度化した内容を地域の人に働きかけ、協力者を掘り起こす。
- ・地域のコミュニティ活動を多種多様にし、他地域との活動交流をすることで情報を取得・

共有する。

- ・地域のコミュニティや趣味の集まりの場などを活用、積極的に参加し悩みを共有して、孤立させない・しないようにする。
- ・新たなコミュニティの場や、身近なところからのネットワークづくりをする。(相互理解をできる場の創出)

2. 自分から情報発信をする

■内容

自分にとっては知っている当たり前の情報であっても、ある人にとっては初めて聞く情報であったり、欲しかった情報である事が多く存在することが会議を通じて見えてきました。同じ市民からの口コミのような情報の方が身近に感じやすいこともあるので、ちょっとした情報の発信も大切であると考えます。そこで、私たちは「**自分から情報発信をしていきます**」。

2. を実現するための具体的な意見は以下のとおりです。

- ・ファミリーサポート制度などの子育てに関して持っている情報を周囲へ伝えるなど、学校、職場、友人等の小さな輪の口コミの力を活用する。
- ・一人一人が制度などについて否定や批判をせず、まずは受け止め、利用してみてから評価、改善点を見つける意識を持ち、自分自身の感想や評価を発信していく。
- ・地域やご近所など、自分の周囲へ目を向ける気持ちを広げ、悩んでいる人に対して的確な情報を発信、紹介していく。
- ・家族や友人など、自分の身近な人と情報共有をする。
- ・職場の仲間、ママ友など、自分の所属しているコミュニティ内でLINEグループなどを活用した情報共有を日頃から行い、情報を蓄積していく。そうすることで、その時は必要のない情報であっても、いざ必要な時にその情報にアクセスしやすい環境をつくっておく。
- ・自分ごと化会議のような「フラットな関わり方」の存在を発信し、こういった関わりに参加する人の数を増やす。
- ・自分ごと化会議の存在を家族、友達、職場で話してみる。そうすることが会話のきっかけになり、それぞれが悩んでいること、行政や地域に望むことや改善したいことなどの意見を発掘し、その意見を発信していく。

3. 情報に対するアンテナを高くする

■内容

会議の中で情報を交換していると、行政で実施している事業や、民間や個人で実施している活動など、今まで自分の知らなかった情報がたくさんあり、その中には自分の役に立つ情報や興味のある情報なども含まれていることがわかりました。日頃から外に目を向け積極的に情報を受信することが、自分の生活の助けになると考えます。そこで、私たちは「**情報に対するアンテナを高くします**」。

3. を実現するための具体的な意見は以下のとおりです。

- ・子育てに関する制度など、市が実施している事業にどんなものがあるかを自分で調べてみる。
- ・太田市の広報紙やホームページなど、まずはざっとでもいいので一通り目を通す習慣をつける。
- ・職場や地域など、自分の身近なところのネットワークに目を向け、それらに対して自分からアンテナを張っていく。
- ・普段自分が情報収集に活用している方法や媒体以外にも目を向け、色々な視点からの情報収集を意識して実行する。
- ・地域から孤立してしまっている人や高齢者に対して、遠くからでもいいので見守り、気にかけるようにする。(具体的な何かの情報を取得するだけでなく、周囲の人の状況も大事な情報だと感じた)

(3) 行政に対する3つの提案と私たちが出来る3つのこと

から見えたこと

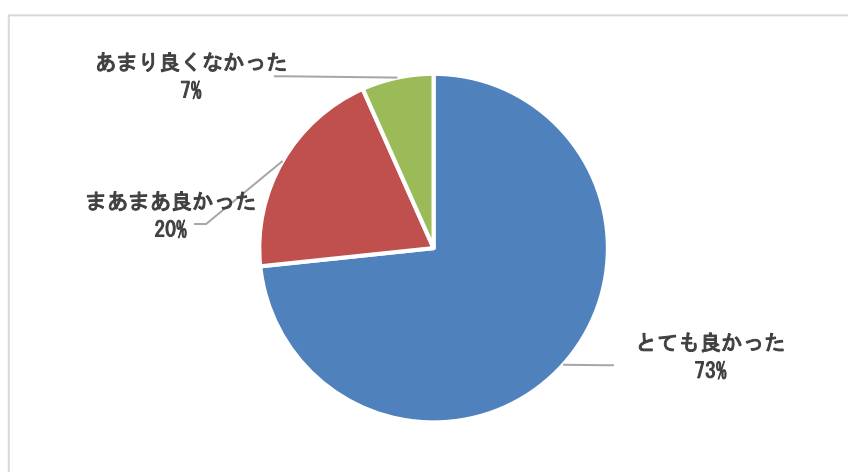
ここまで、行政に対する提案と私たちができることとして6つの事を挙げてきました。形としては行政に対しての要望と、私たちにできることという構成になっています。しかし、そういった枠にとらわれず、行政と市民がお互いどんなことを考え必要としているかを、お互いが歩み寄りながら考え行動することが大切だということに会議を通じて気づくことができました。行政も市民も身の回りのことを“自分ごと”として捉え行動することが、より働きやすい太田市づくりの力になると考えます。ここに挙げてきた提案を行政や太田市民が見ることにより、各々が自分ごととして考えるきっかけになれば幸いです。

4. 付録：アンケート結果

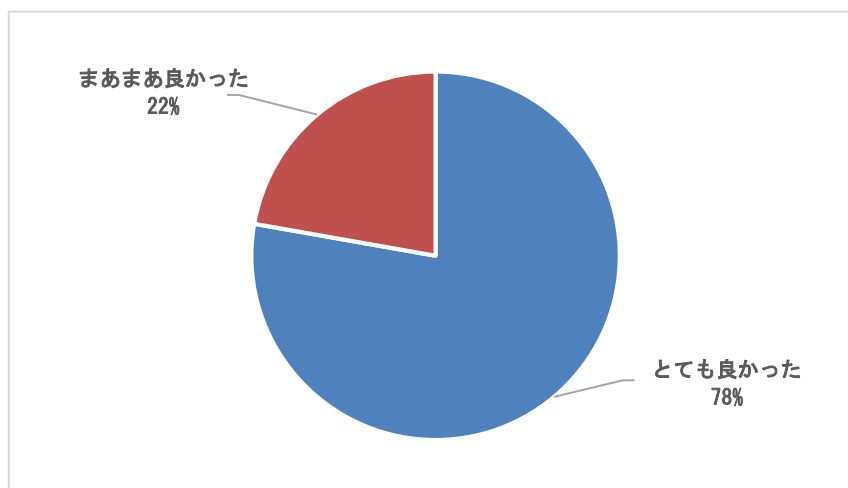
第1回及び第4回会議にて実施した参加委員を対象としたアンケートの集計結果は以下のとおりです。

1. 自分ごと化会議に参加してみてもいかがでしたか。

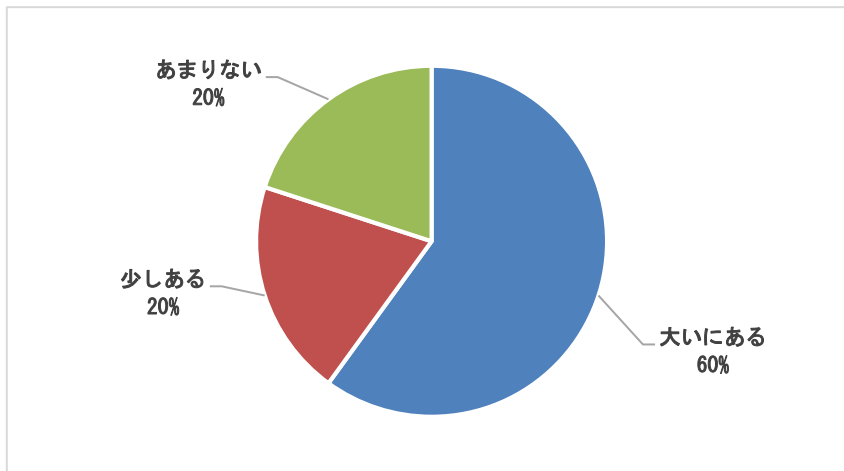
● 第1回会議時の回答結果



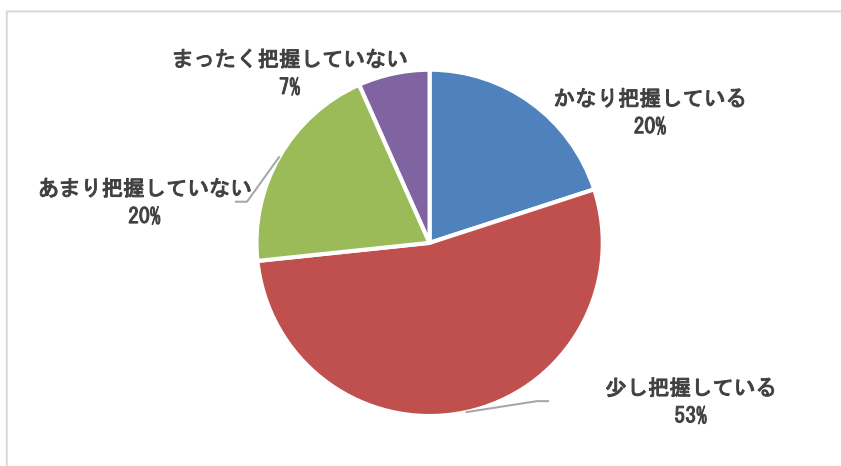
● 第4回会議時の回答結果



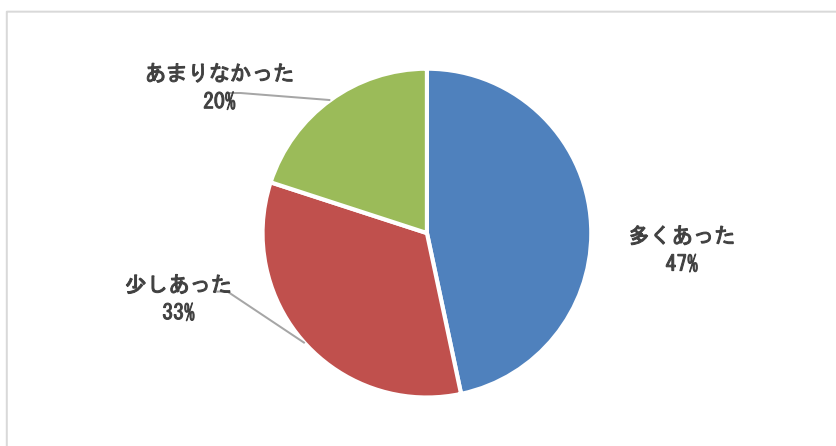
2. 「自分」の生活や仕事について、課題に感じていることがありますか。



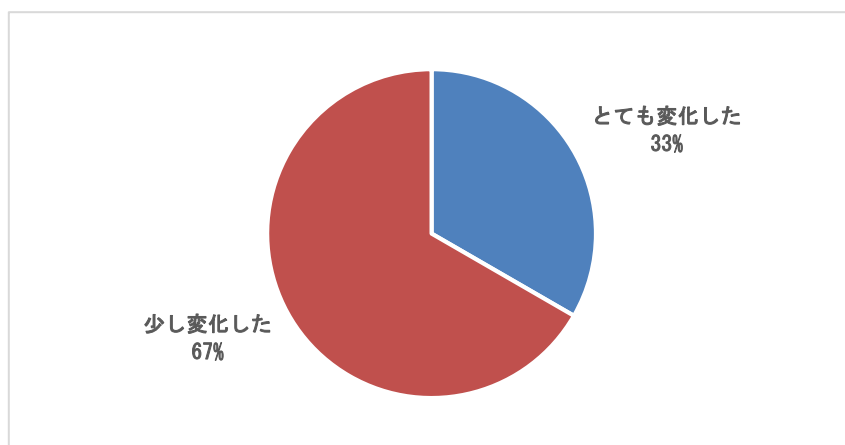
3. 「身近な人」の生活や仕事について、課題を把握していますか。



4. テーマに関する市の現状について、新しい発見はありましたか。



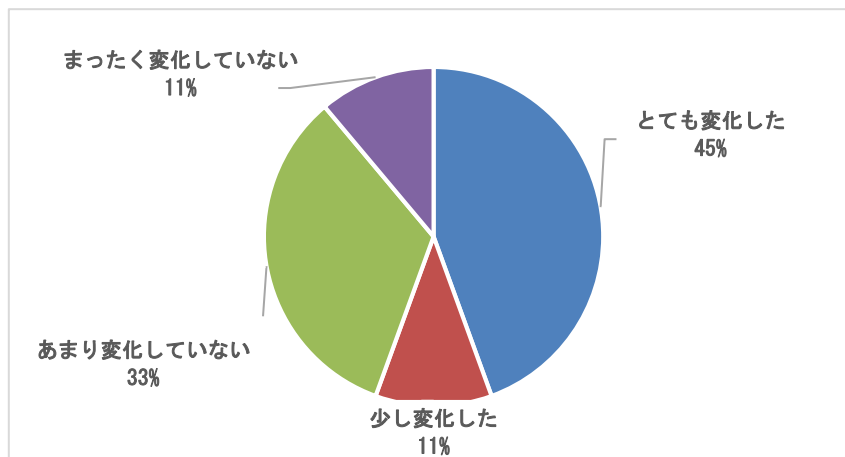
5. 自分ごと化会議に参加したことで「意識の変化」はありましたか。



■具体的な意識の変化

- ・ 世代間や職業、そして家庭環境が異なる参加者からの意見や現状の行動、悩みなどを聞き、認識していたつもりであったが認識が甘かったことが分かった。
- ・ 市政に対する興味が以前より増した。
- ・ 会議の内容とはズレてしまうかもしれませんが、社会的に弱い人が犠牲になるニュースを見るたびに周りは何してあげられなかったのかなと考えることはありましたが、他人ごとではなく自分ごととして、周りでそういうことがあれば怖がらず手を差し伸べようと思えるようになった。
- ・ アンテナを張って過ごすようになりました。
- ・ 自分では情報を取りに行っていると思っていましたが、まだまだ不足（見ている情報が偏っていた）していることに気が付き、より広い情報に目を向けるようになった。
- ・ 家族、友達、職場で会議の話をするにより、いろんな意見をもらい、会話のきっかけになり、悩んでいること、行政や地域に望むことや改善してもらいたいことがある事を知った。自分だけじゃなく、お互いに困っていることがあるのだと感じた。
- ・ これからの太田市に興味を持ちました。
- ・ 自分の価値観でしか考えられない部分について反省することができた。
- ・ 仕事柄、地域や人々の関係性を意識していたが、もっと現実と向き合いたいと思いました。また、サードプレイスやアウトリーチを知るきっかけになったので、できることを試みたい。
- ・ 太田市を身近に感じる事ができた。

6. 自分ごと化会議に参加したことで「行動の変化」はありましたか。

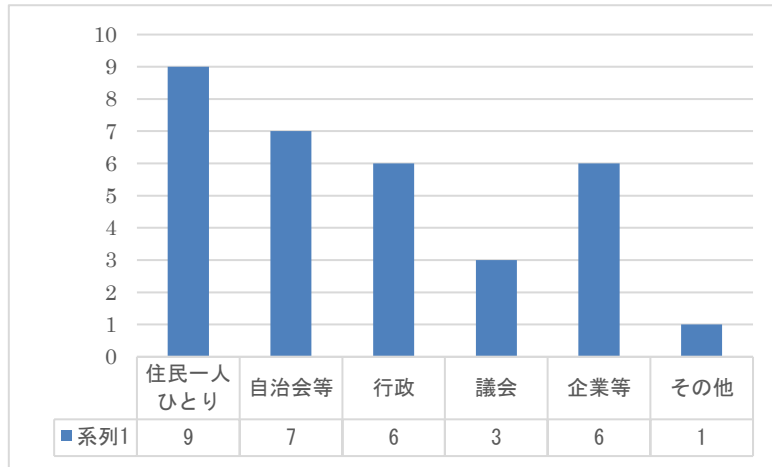


■具体的な行動の変化

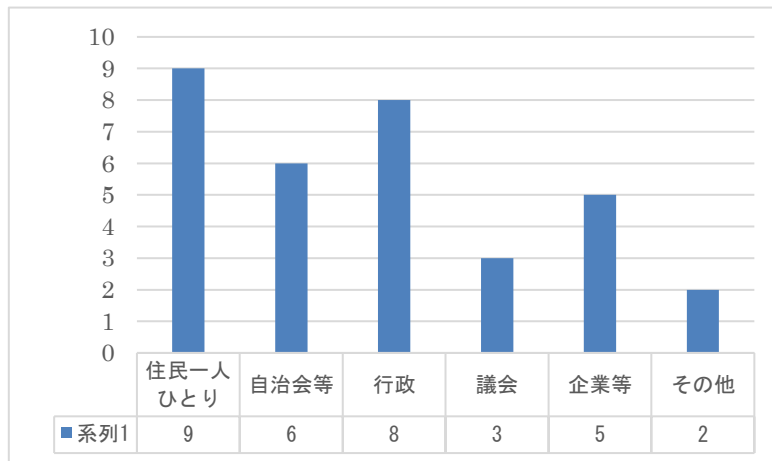
- ・ 日常の中で当たり前だから仕方ないと流していたことも、何か改善策はないかと前向きに考え行動するようになった。
- ・ 日頃から情報交換はしていましたが、今までには気にしていなかった使えること、気になることにアンテナを立てて行動するようになった。
- ・ 大学教授との話し合いに積極的に参加することや、企業の在り方について考えることが増えた。
- ・ 視野を広げる良い機会になり、地域の人や市のために少しでも問題解決に努めたい。
- ・ 今回認識したことを地域活動の中に生かしていきたいと考えています。特にイベント開催などを通じ、参画を増やすと共に参加者との交流の機会をこれまで以上に図る。

7. 太田市をより良くするために特に重要と思う主体を選択してください。(複数選択可)

● 第1回会議時の回答結果



● 第4回会議時の回答結果



8. 会議全体を通して特に印象に残ったこと、感想等

- ・ 4回の会議であったがその都度意見考え方を聞いて学ぶところが多かった。自分が40代前後の頃と現在の生活環境は大きく違っていることに気づかされた。中でも子供を育てながら仕事を続けること、夫婦二人の生活で子どもを育てることの苦労などは大変なものがあると知らされた。両親と同居、または近くにいる人とそうでない人では負担が異なるため、困ったときの対応をどうするかなどのネットワークが必要なのではないかと感じた。今回の機会は自分では集められない人たちであり、参加して考え方や意見交換することで将来の自分形成のヒントをもらえました。
- ・ 市内や隣町に大手企業があり、そんな企業の協力会社や下請け会社が大半で成り立っている太田市。そんな社会構図の中で私たちは生きているのだと思いますが、そんな今の構図がいつまで続くのか？と、いつも考えてしまい、危機感さえ感じます。新しい発想や新しい産業を太田市に取り入れる必要があるのではないかと思います。一人一人の意識が変われば、地域が変わる。地域の意識が変われば、行政が変わる、世の中も変わる。日々何ができるかを考え行動したいと思います。色々な意味で、個々がコミュニケーションスキルを上げていく必要があると思いますし、働き（仕事）続けられることが、生きる喜びかと思えます。
- ・ テーマに自由度があり過ぎて難しいと感じました。もっと具体的な課題を話し合う方が議論しやすかった気はします。また、人数が多く腹を割った話や実際どうなのかと言うところまで深まらないので、班を分けての議論もあるといいと感じた。発言していても長くならないように心がけてしまい、自発的な発言がしにくいなと感じた。ただ、新鮮で色々な考えを聞いたのは勉強になりました。
- ・ 皆さんと関わったことで、一つ引き出しが増えた気がします。「まずは自分から」いつか皆さんにお会いできたときに恥ずかしくない自分でいられるように、また明日から頑張ります。
- ・ 今回のテーマはとても大事なテーマだと思いました。今後、IT化がますます進む中、テレワークがしやすい環境づくりや、テレワークができない職種の方（だけではありませんが）への子育て/介護支援の利用しやすさが広がれば、さらに働きやすい街になるような気がします。今の自分にできる小さな広報活動（周囲の人から情報を受け取る、広める）を行っていこうと思います。
- ・ 太田市の取り組みが今一つ認知されておらず残念。正直、周囲の会話から市役所に行く対応が悪いなど評判が悪かったので、できれば関わりたくなかったです。自分の周りで自分ごと化会議の存在を知っている人、参加した人がおらず、話をしたらかなり興味を持ってもらいました。会議内容を毎回聞きたい、これを議題に挙げてほしいなどの声もありました。太田市の会議に参加したいけど、曜日と時間は毎年同じなのか、参加したいがその間子供は観てもらえるのか、など聞かれたこともあります。自分が会議に選ばれたことを伝えると、多くの人は反応があり、それぞれに意見がある事を知りまし

た。それだけ関心が強いのだと今回感じました。こういった会がもっと、広がると良いです。ありがとうございました。

- 自分ごと化会議に参加し、新しい仲間ができたことをありがたく思います。他の委員の皆さんのそれぞれ異なった視点や意見を聴くことができ良かったです。このメンバーが今日で解散することは残念ですが、この経験は今後も活かせると思います。街で見かけたら声を掛け合いましょうね。